

中国美術家協会理事、 中国画研究院副院長などを歴任

中国現代美術界で卓越した画家黄胄(国家一級美術師)は河北省出身で、新疆ウイグル自治区の遊牧民の生活を描くことで有名です。また、ウマやロバ、ラクダなどの動物の姿態を躍動的にとらえた描写は高く評価され、**中国有史以来の選抜画家20人展**にも選ばれています。黄胄は1997年4月に亡くなりましたが、それまで**中国美術家協会理事、中国画研究院副院長などを歴任**、また美術館「炎黄美術館」を創設するなど中国画壇に果たした役割は非常に大きいといえます。**日本では1978年日中平和友好条約を結ぶために訪日した鄧小平副首相が、昭和天皇に黄胄氏の作品を贈呈されたことでも知られています。**



梁黄胄略歴

- 1925年 3月8日、河北省蠡県梁家荘に生まれる。
- 1943年 著名な山水画家 趙望雲と出会い師事する。
- 1945年 河南省黄泛区に写生旅行し、その先で写実的な作品を描き評価を得る。また、画家 司徒喬と出会い師事。さらに、1946年にかけて、「雍華」をはじめとする刊行物に作品が発表され、有望な新人として紹介される。
- 1947年 師の趙望雲に随行して、甘肅省、新疆ウイグル自治区等へ写生旅行する。
- 1949年 5月、中国人民解放軍に加わり、同年8月、甘肅省蘭州に従軍した。この後西北辺境部隊において美術活動に従事し、長年にわたり、新疆・青海・甘肅・チベットの少数民族地区に入り、少数民族の生活の様子を大量に写生する。
- 1950～1954年 西北師範学院美術科の教師を兼任し、創作を教えた。
- 1954年 鄭聞慧と結婚する。
- 1955年 北京軍区政治部創作室創作員に異動になり、創作活動に専念する。
- 1956年 新疆に3回目の写生旅行を行う。
- 1957年 世界青年友好祭で「洪荒風雪図」が金賞を受賞する。
- 1959年 中国人民革命軍軍事博物館創作員となる。
- 1963年 新疆に4回目の写生旅行を行う。
- 1966～1972年 文化大革命。創作活動を一時中断する。
- 1974年 4月から1976年にかけて、作品を「黒画」(資本主義に毒された絵)と批判され、創作活動を一時中断する。
- 1977年 春、脊髄の急性発作を起こし、四肢が軽度麻痺したため友好病院に2年8ヶ月入院する。
- 1978年 **10月、鄧小平副首相が日本を訪問し、「百驢図」を当時の天皇皇后両陛下に贈呈する。**
- 1979年 秋、退院後、新疆に5回目の写生旅行を行う。
12月、深圳で「黄胄作品展」を開催。
- 1981年 河北省で「黄胄新作展」を開催する。
中国画研究院が設立され、黄胄が常務副院長に任命される。
- 1982年 6月、甘肅省蘭州で「黄胄作品展」を開催。
7月、北京で「黄胄作品展」を開催。
- 1983年 四川省成都、宜昌で「黄胄作品展」を開催。
- 1984年 初夏、ハルビンで「黄胄作品展」を開催。
8月、東京で「梁黄胄展」(西武美術館主催)を開催。
12月、山東省済南、青島で「黄胄作品展」を開催。
- 1985年 1月、天津で「黄胄作品展」を開催。
2月、深圳で「黄胄作品展」を開催。
4月、香港で「黄胄作品展」を開催。
- 1986年 2月、シンガポール国立博物館で「黄胄作品展」を開催。
10月、ロンドンで「黄胄作品展」を開催。
- 1987年 5月、デュッセルドルフで「黄胄作品展」を開催。
10月、ハンブルグで「黄胄作品展」を開催。
- 1988年 5月、ローマで「黄胄作品展」を開催。
6月、中国文学芸術界連合会代表団団長として、日本を訪問。
10月、河北省石家荘で「黄胄作品展」を開催。
- 1991年 9月、黄胄の作品を集めた私設の炎黄美術館創設。
- 1997年 4月23日没